



▲青春の墓標

谷中安規の夢

シネマとカフェと怪奇のまぼろし

2003年12月9日(火) — 2004年2月1日(日)

午前9時—午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日：12月15日(月)、22日(月)、12月29日(月)~1月3日(土)、1月5日(月)、13日(火)、19日(月)、26日(月)

一般300円(240円)/小中学生100円(80円)

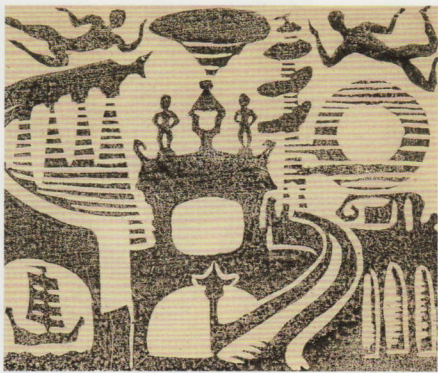
※()内は10名以上の団体料金 65歳以上の方および障害者の方は無料
毎週土曜日は小中学生無料

講演会：12月21日(日) 午後2時~ 対談：北村 薫(作家)+大野隆司(版画家)「谷中安規とその時代」

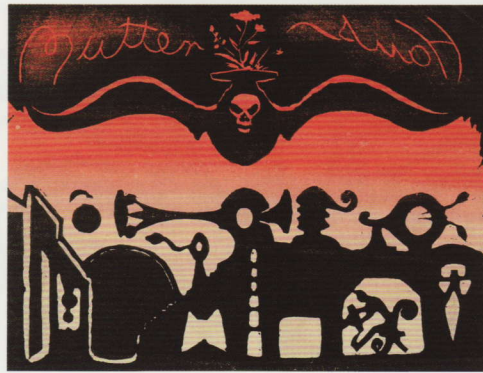
渋谷区立松濤美術館

東京都渋谷区松濤2-14-14 TEL. 03-3465-9421 JR渋谷駅下車徒歩15分/京王井の頭線神泉駅下車徒歩5分





夢の国 京都国立近代美術館蔵



ムッテル・ショウス



童子騎虎



宴 東京国立近代美術館蔵



死神 京都国立近代美術館蔵

谷中安規の夢

シネマとカフェと怪奇のまぼろし

谷中安規、こんな版画家、見たことありますか。

現実をさまよっていたのか、それとも、まぼろしを逍遙していたのでしょうか。まるで、浮遊する魂の持ち主です。

登場するのは、密談する犬族、黄泉の空を飛ぶ母子、笑う鷲、教壇にたつアザラシ、虎に跨るわらし、魚頭人間、影になった男、怪奇と妖気あふれる逢魔が時の街の中。天から降りる瞑想力はつぎつぎとイメージを紡ぎだします。

日夏耿之介や内田百閒や佐藤春夫に愛され、つけられたあだ名が風船画伯。『王様の背中』や『FOU』の挿絵は物語をスリと抜け出し、愉しくてほんとうに美しい本です。

空には飛行船、自転車で坂道をのぼり、エッフェル塔を巡る自動車、唱う蓄音機、機械や新しいものが大好き。

エロ・グロ・ナンセンスの時代、得意なものは体をくねらせる黒のダンスです。

デモーニッシュな幻想とモダン東京のなか放浪するのは、あるいは夢遊病者チェザーレだったのでしょか。光と影が交錯する都市の闇のなかふかく、あの江戸川乱歩が散歩していたかも。反近代と同居する、1920-40年代から照射するモダニズムの影絵の姿。

ひょっこり現れては居候をくり返した安規、街を飄々と歩きヒョイっとそこに立っていそうです。

大のシネマ狂でお金があればいつもカフェに入り映画館へ通う安規、清貧楽土に棲んでいました。

安規は版画のスーパースター。

めくるめくアンキ・ワールドへ、ようこそ。



自転車



破裂するもの(白昼夢) 京都国立近代美術館蔵

【ギャラリートーク】

12月12日(金)、1月16日(金)
いずれも午後2時より当展担当学芸員

【美術相談】

12月20日(土) 午後2時～ 講師 佐藤善勇(油彩) 粟田口博(水彩)
1月24日(土) 午後2時～ 講師 西嶋俊親(油彩) 舟橋淳司(水彩)

【美術映画会】

「カリガリ博士」ロベルト・ヴィーネ監督 ドイツ映画1919年制作
12月9日(火)、10日(水)、26日(金)、27日(土)
1月6日(火)、7日(水)、17日(土)
いずれも午後2時より



【講演会】

12月21日(日) 午後2時～
対談 北村薫(作家) + 大野隆司(版画家)「谷中安規とその時代」

【きみも安規さんになろう?! ワークショップ子供版画教室】

案内人：大野隆司(版画家)
1月18日(日) 午後2時～3時30分

応募対象：小学6年生から中学3年生まで 定員15人
なお彫刻刀を 사용합니다のでご了解のうえご参加下さい。
(見学はどなたでも可能です)

応募方法：往復ハガキで申し込み下さい。抽選します。
応募締切：12月20日(土) 必着
参加無料：道具等は美術館で用意します。